

2019年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	149500194	事業の開始年月日	平成23年12月1日	
		指定年月日	平成23年12月1日	
法人名	株式会社日本アメニティライフ協会			
事業所名	花物語たかつ新館			
所在地	(213-0031) 神奈川県川崎市高津区宇奈根637-6			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18	名
		ユニット数	2	ユニット
自己評価作成日	令和元年10月16日	評価結果 市町村受理日	令和2年3月9日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方がその人らしく毎日生活ができ、一人ひとりに寄り添い出来る限りご自宅で生活していた頃にしてきた事を継続できるよう努めています。行事にも力をいれていて外出行事や室内行事を必ず月1回企画しています。ご家族様や利用者様からも大変喜ばれています。1日置きの散歩も実施している中で、すれ違う地域の方と顔見知りになれたり、町内の農家へお野菜を買いに出かけたりと地域の方との交流を持つことができている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和1年11月28日	評価機関 評価決定日	令和2年2月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は、JR南武線「久地駅」から徒歩約10分の、医療・福祉関連が集まる「メディカルビレッジ高津」の一角にあります。3階建ての2階、3階に2ユニットのグループホームがあり、1階には、小規模多機能型居宅介護事業所を併設しています。同一法人で、企業主導型保育園を併設したグループホームも隣接しています。法人は、神奈川県や東京都を中心に福祉事業を展開する株式会社です。ビレッジ内には、薬局、内科、整形外科医院、歯科医院など、医療施設も揃っており、夜間も安心です。徒歩圏内に多摩川緑地や氷川神社があり、四季折々の自然環境を楽しむことができています。

<優れている点>

入居しても出来る限り今までの生活と変わらないように、一人ひとりが自分らしく暮らせる支援に努めています。特に外気に触れることができる外出を多く取り入れ、買物、外食、散歩、行事など、これまで経験してきた社会とのつながりを大切にしています。今までの生活習慣や趣味が継続出来るように、アセスメントやモニタリングを積み重ね、本人の思いに沿う支援をしています。職員が認知症介護の本質を理解し、意識を持つことで支援の質が高められるとする管理者の思いから、毎月勉強会を行い、感想文や自己評価で理解しているかどうか確認をしています。

<工夫点>

川崎市主催の「健幸福寿プロジェクト」に毎回参加しており、介護度が下がって、金メダルを受賞しています。今期は、職員全員で、ADLの維持を目標に取り組んでいます。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語たかつ新館
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	今年度より「気づき 考え 行動する～その人らしさを大切に一人ひとりに寄り添います～」という理念を新に掲げました。職員全員からアンケートをとり作成しました。いつでも目につく所へ掲示し実践に繋げている。	開設から8年目に入り、前理念の「生き生き暮らそう」から職員全員で考えた理念「安心・安全・信頼・笑顔」にしています。一人ひとり、その人らしさを大切にした支援を意識し、日々努めるようにしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎年の夏祭りや例大祭への参加することで顔なじみになり、散歩の際に挨拶を交わしたり、お声をかけて頂いています。	ビレッジ内で催す夏祭りは、地域住民が大勢参加する夏の一大イベントで、事業所では150食分のカレーや冷やしきゅうり、ヨーヨー釣りなどを用意しています。入居者は氷川神社の例大祭に参加したり、散歩がてら野菜販売所に立ち寄るなど、交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	お散歩時に近隣の農家へお買い物に行き地域の方とお話しをしたり、近隣の中学校の職業訓練などを積極的に受け入れています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	フロア会議で運営推進会議の内容や地域の方からのご意見、連絡などを報告しサービス向上に繋げるよう話し合いをしています。	隣接する同一法人の事業所と開催し、入居者や家族、町内会々長、民生委員、地域包括支援センター職員などが参加しています。事業所の現状報告をして、地域の情報も得ています。今後は地域特性の防災について、具体的な協力体制などを確認していくこととしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当者と情報交換やアドバイスを受たり、入居者の認定調査、入居人数の現状確認など、様々な面において連携を取り協力関係を構築しています。	高津区介護認定課、区高齢障害課・生活保護課、地域包括支援センターなど利用者に関連する市町村担当者とは、密に連絡を取り合い、利用者が安心して暮らせる支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年2回身体拘束についての職員研修を行う事により施設全体で理解に努めています。フロアの扉は防犯上の都合により施錠していますが、外出希望がある際は職員同行のもと外出しています。	身体拘束廃止委員会を設置し、虐待防止の徹底について、全職員対象の研修を行っています。手引書やDVDで事例や職員のストレス緩和などを学び、身体拘束、虐待への理解を深めています。また、毎月行う研修会では虐待自己チェックリストや感想を提出し、支援の振り返りをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修を実施し虐待防止の徹底に努めている。見過ごすことのないよう職員全体で気配りをしています。定期的に職員と面談を行い不安や困りごとがないか確認できる場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を実施したり、情報を共有できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結時には、全文の読み上げを行い項目ごとに質問できる時間を設け、納得、理解した上で契約の締結を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時、担当者会議等で意見交換を行い、ご意見・ご要望について実現に向けた話し合いを職員間で行い、運営に反映しています。	利用者は日常的な関わりの中で、家族は、面会時や運営推進会議、介護計画作成時などで聞く機会を設けています。第三者への苦情受付については、重要事項説明書に明記し、事業所内にも掲示しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談や朝礼等で意見交換を行い、運営に反映している。	個人的な意見・要望は、定期的に個別面談で聞いています。事業所への意見や気づきについては、朝礼や職員会議などで話し合い、運営に反映しています。最近では、夜勤明けに休憩枠を取り入れ、余裕を持って次の支援に入れる勤務体制を調整しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長が定期的に面談を行い職員の意見や考えに耳を傾けています。必要時には、業務改善等に努め職員が意欲的に働ける環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修、外部研修などに積極的に参加を促しています。法人としては新人研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	施設外の研修に参加し、他施設の職員と相互の施設サービスについて情報交換を行い、サービスの質の向上ができるよう努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には管理者、看護師、ケアマネージャーと本人面談に行き、アセスメントし要望等ある際はケアプランに反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご自宅での様子や施設に入居後も継続して欲しい事などの聞き取りを行い、不安なことや要望等をいつでも伝えられるよう電話のみならずメールなども利用しご家族と密に連絡を取り合い信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	一人ひとりに寄り添い、入居前の生活の様子や入居後の生活の様子から見極め他職種と連携をとりサービス等の変更等をおこない実践している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な範囲内で家事に参加していただき、家事終了後には感謝の気持ちを伝えるようにすることで相互協力関係構築に努めています。家事活動の苦手な方には買い物の付添をしていただくなどしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には最近のご様子をお話ししたり、ケアの相談等をする機会を作っています。行事の写真を含めたお手紙を毎月お届けしご家族との繋がりを大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、ご友人との面会を大切にし居室でゆっくりお過ごし頂いたり、ご家族やご友人との外出支援も行っています。	本人のこれまでの人間関係や習慣を把握しています。家族、知人、友人との付き合いや過ごし方を極力変えることなく、今までの延長線上であるように、一人ひとりの思いや生活習慣に沿う支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格や感情の変化などを理解した上で、家事活動や行事の参加を通して関わりをもつ事で支え合える関係の構築に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院先への面会の継続やご家族と連絡を取り合い近況を聞き退居後も関係が途切れることのないよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアを通して一人ひとりの意向や希望を把握し、職員同士で共有する事で本人の要望等にできる限り近づけられるようしている。	本人の思いや意向の把握に努め、今に即した支援を職員共有で話し合い、取り組んでいます。把握が困難な場合は、行動や表現の変化に対応した具体的な事例を記録し、成功例を積み重ねて、本人が落ち着く環境を模索しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご本人の情報得ている他ご本人やご家族から聞いた話を職員間で共有しています。またアセスメントを熟読しこれまでの生活歴を把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子や健康状態を個人記録に残し、申送りや朝礼時にフロア職員、施設長、医療連携看護師が把握できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	個々の現状に合った介護計画を本人、ご家族の意見を取り入れ作成し、随時変更も行っています。職員間ではフロア会議やモニタリングの際に個人ケアについて意見交換を行い介護計画に反映しています。	本人や家族の思い、要望を把握し、アセスメントを基に現場の職員だけでなく他職種とも連携し、ケアプラン、モニタリングで確認をしています。状況に応じて見直しをしながら本人に最も適した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	フロア会議を定期的におこない、日々気づきや考えを共有することでより良い環境作りや個人ケアの改善、見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族の状況、要望、ADLの変化には、適宜他職種で連携をとり柔軟な支援、サービスの提供ができるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	買い物を含め積極的にご近所へ外出する機会を設け、地域の行事や施設の外出外出行事に全員が参加できるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の内科往診の他特変時には協力医療機関との連携を密にとり必要に応じて受診に繋げ適切な医療を受けられるよう支援しています。	入居者全員が、隣接するメディカルビレッジ内の内科医院をかかりつけ医としています。近隣の整形外科医、病院（3ヶ所）とも連携しており、入居者の安心感に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	申送りや個人記録を確認し、医療連携看護師との情報共有を常に行っています。また24時間ONコール体制をとり急変時などにも適切な支援が受けられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は頻繁に病院に足を運び現状の把握に努めています。ムンテラにも参加し早期に退院できるよう備えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針は入居前の段階で説明し、同意をいただいています。職員間では研修を行い重度化した場合や終末期に向けた取り組みについても話し合いをしています。	重度化、看取りについて、定期的な事業所内研修に加え、職員には外部研修にも積極的に参加する取り組みを1年間継続し、受け入れ体制が整っています。重度化した場合や終末期の対応については医師の判断・指導を中心に行うことになっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルが各フロアに設置されており、それに基づいた対応ができるようになっていました。また定期的に研修を行い実践力を身につけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防訓練を行い、災害時の避難誘導が円滑に進められるようにしています。また定期的な研修をおこない災害、水害に備えています。地域の方には運営推進会議で話す機会を設け地域との協力体制を築いています。	事業所周辺では台風による河川の水位上昇で洪水が発生しています。1年前に洪水の避難訓練を行っていたため、慌てることもなく対応できています。地域の住民との連携もより強化し、備蓄などの見直しも行う予定です。	身近に起きた災害から訓練の有効性を感じています。より有意義な災害対策とするため、建物破損、停電などを想定した取り組みも期待されま

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣いや、接し方、態度を通し日常生活から個々の人格の尊重を大切にしています。また各居室の入退室時には、ノックや声掛け、トイレ使用时には必ずドアを閉めプライバシーにも配慮をおこなっています。	一人ひとりの経歴を踏まえ、人格を尊重した声かけを大切にしています。居室への入室時のノック、トイレドアを確実に閉める、トイレ誘導時の声かけの配慮など、全職員は利用者のプライバシーに配慮し、真摯に向き合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	様々な場面での選択権はご利用者様に委ねる等、日ごろから利用者が希望を表し易い関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のその日毎の生活ペースを尊重し、どのように過ごすか本人に尋ねできる限り希望に添えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髭や髪の手入れは声掛けや介助を行い、洋服の選択はご自身の選択を優先し整容に努めています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	汁物で使用する野菜を近所の農家へ一緒に買いに行ったり、盛り付け、配膳などその方の力量に合わせやっていたでいます。個々にあった食事形態で提供し食べることの意欲を維持できるような支援を行っています。	食材は外部の業者から仕入れ「湯せん」しています。近隣の農家に出かけて仕入れた食材で、入居者と職員が「汁物」を調理しています。おやつ作り、誕生日ケーキ作りなどは入居者中心で作ることが習慣となっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取量や食べ方の変化などを個人記録に残し、健康維持に繋げている。体調や症状の変化に合わせた食事形態で提供するよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後歯磨き声掛け、必要に応じて介助を行い口腔内の清潔の保持に努めています。毎月2回歯科往診を受け一人ひとりに合った口腔ケアのアドバイスをいただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の内容を個人記録に記入し、個々の排泄パターンを把握し、間隔が長い方には声掛けをおこなっています。個々に合わせた介助を職員同士で共有し統一したケアに努めています。	詳細な記録から排泄パターンを把握し、誘導することで、全員がトイレに座って排泄ができています。本人に尿意を感じてもらい、自らトイレに行こうとする習慣をつけるために、全員に向けて「トイレは如何ですか」と呼びかけることもしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の有無を職員、看護師と申送りで共有しています。週3日おやつにヨーグルトの提供や体操などを取り入れ出来るだけ便薬を使用せず排便できるように工夫しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の間隔が3日以上開かないよう勧める声掛けを行っています。入浴の希望の有無や時間変更などは臨機応変におこなっています。個々のお好みの湯温で入浴を楽しんでいただけるよう工夫しています。	入浴は週2回、1日3名が入っています。リビングに浴室への扉があり、身近になっています。浴室の温度に配慮し、湯は毎回入れ替えて清潔さを大切にしています。湯温を個々の好みに合わせることもしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの体力や要望に応じて居室にて休息していただいています。散歩やレクリエーションの実施、家事活動の参加を促す事で日中活動的に過ごして頂き夜間は安眠できる環境づくりをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬時、職員2名体制で誤薬防止対策をしています。フロアには処方薬リストを設置しいつでも処方内容を確認出来るようにしています。また、一人ひとりのADLに合わせた服薬介助をおこなっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯たたみや食器拭きなどの家事活動に積極的に楽しんで参加されています。日々の散歩や外出行事、室内レクリエーションを通して気分転換して頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩、買い物を日課として行っています。月1回外出行事を企画し普段行かないような所への外出、外食の機会を設けています。	散歩は1日おきで、散歩のない日は職員と一緒に日用品などの買い物に行っています。2ヶ月に1回は外出先で食事もし、毎月の「花物語たより」に写真をつけて家族に郵送し、報告しています。「家では行けなかったところに行けた。」と喜ばれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の際や外出の際に職員が代金を利用者にお渡しし、ご自身で料金を支払っていただくようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご要望のある際は、ご家族に電話をかける支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	週一回、玄関やフロアに季節の花を生けていただいています。廊下には利用者と職員で共同制作した物や利用者が作った千羽鶴を掲示しています。	週に1回、玄関に「花守」に花を活けてもらい入居者は季節感を味わっています。自宅の居間と同様、リビングには、身近にあると便利な品を近くに置き、片づけ過ぎないようにしています。職員はリビングではエプロンを使わないこととしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアの席を決める際には気のあった利用者が自由に会話を楽しめるような席の配慮をしています。他の利用者の居室で談話されている方や、ソファで寛いでいる方など思い思いに過ごせる環境づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具やアルバム、テレビなどを置き居心地の良い環境づくりをしています。	居室担当は置かず、職員全員が利用者を見守り、家族と相談しながら支援しています。着替えなども入居者が自分で決めて用意する支援をしています。タンスなどに入っているものを表記して、自立した生活ができるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者の生活の妨げとならないかを念頭におき環境整備を考えています。タンスなどには入っているものなどを表記する等自立した生活を送れるよう工夫しています。		

事業所名	花物語たかつ新館
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	今年度より「気づき 考え 行動する～その人らしさを大切に一人ひとりに寄り添います～」という理念を新に掲げました。職員全員からアンケートをとり作成しました。いつでも目につく所へ掲示し実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎年の夏祭りや例大祭への参加することで顔なじみになり、散歩の際に挨拶を交わしたり、お声をかけて頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	お散歩時に近隣の農家へお買い物に行き地域の方とお話しをしたり、近隣の中学校の職業訓練などを積極的に受け入れています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	フロア会議で運営推進会議の内容や地域の方からのご意見、連絡などを報告しサービス向上に繋げるよう話し合いをしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市町村担当者と情報交換やアドバイスを受けて、入居者の認定調査、入居人数の現状確認など、様々な面において連携を取り協力関係を構築しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年2回身体拘束についての職員研修を行う事により施設全体で理解に努めています。フロアの扉は防犯上の都合により施錠していますが、外出希望がある際は職員同行のもと外出しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修を実施し虐待防止の徹底に努めている。見過ごすことのないよう職員全体で気配りをしています。定期的に職員と面談を行い不安や困りごとがないか確認できる場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修を実施したり、情報を共有できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結時には、全文の読み上げを行い項目ごとに質問できる時間を設け、納得、理解した上で契約の締結を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時、担当者会議等で意見交換を行い、ご意見・ご要望について実現に向けた話し合いを職員間で行い、運営に反映しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的な面談や朝礼等で意見交換を行い、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長が定期的に面談を行い職員の意見や考えに耳を傾けています。必要時には、業務改善等に努め職員が意欲的に働ける環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内研修、外部研修などに積極的に参加を促しています。法人としては新人研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	施設外の研修に参加し、他施設の職員と相互の施設サービスについて情報交換を行い、サービスの質の向上ができるよう努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には管理者、看護師、ケアマネージャーと本人面談に行き、アセスメントし要望等ある際はケアプランに反映させています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご自宅での様子や施設に入居後も継続して欲しい事などの聞き取りを行い、不安なことや要望等をいつでも伝えられるよう電話のみならずメールなども利用しご家族と密に連絡を取り合い信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	一人ひとりに寄り添い、入居前の生活の様子や入居後の生活の様子から見極め他職種と連携をとりサービス等の変更等をおこない実践している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	可能な範囲内で家事に参加していただき、家事終了後には感謝の気持ちを伝えるようにすることで相互協力関係構築に努めています。家事活動の苦手な方には買い物の付添をしていただくなどしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には最近のご様子をお話ししたり、ケアの相談等をする機会を作っています。行事の写真を含めたお手紙を毎月お届けしご家族との繋がりを大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、ご友人との面会を大切にし居室でゆっくりお過ごし頂いたり、ご家族やご友人との外出支援も行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格や感情の変化などを理解した上で、家事活動や行事の参加を通して関わりをもつ事で支え合える関係の構築に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院先への面会の継続やご家族と連絡を取り合い近況を聞き退居後も関係が途切れることのないよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアを通して一人ひとりの意向や希望を把握し、職員同士で共有する事で本人の要望等にできる限り近づけられるようしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にご本人の情報得ている他ご本人やご家族から聞いた話を職員間で共有しています。またアセスメントを熟読しこれまでの生活歴を把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子や健康状態を個人記録に残し、申送りや朝礼時にフロア職員、施設長、医療連携看護師が把握できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	個々の現状に合った介護計画を本人、ご家族の意見を取り入れ作成し、随時変更も行っています。職員間ではフロア会議やモニタリングの際に個人ケアについて意見交換を行い介護計画に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	フロア会議を定期的におこない、日々気づきや考えを共有することでより良い環境作りや個人ケアの改善、見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族の状況、要望、ADLの変化には、適宜他職種で連携をとり柔軟な支援、サービスの提供ができるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	買い物を含め積極的にご近所へ外出する機会を設け、地域の行事や施設の外出外出行事に全員が参加できるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の内科往診の他特変時には協力医療機関との連携を密にとり必要に応じて受診に繋げ適切な医療を受けられるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	申送りや個人記録を確認し、医療連携看護師との情報共有を常に行っています。また24時間ONコール体制をとり急変時などにも適切な支援が受けられるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は頻繁に病院に足を運び現状の把握に努めています。ムンテラにも参加し早期に退院できるよう備えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針は入居前の段階で説明し、同意をいただいています。職員間では研修を行い重度化した場合や終末期に向けた取り組みについても話し合いをしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時のマニュアルが各フロアに設置されており、それに基づいた対応ができるようになっていきます。また定期的に研修を行い実践力を身につけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回消防訓練を行い、災害時の避難誘導が円滑に進められるようにしています。また定期的な研修をおこない災害、水害に備えています。地域の方には運営推進会議で話す機会を設け地域との協力体制を築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣いや、接し方、態度を通し日常生活から個々の人格の尊重を大切にしています。また各居室の入退室時には、ノックや声掛け、トイレ使用时には必ずドアを閉めプライバシーにも配慮をおこなっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	様々な場面での選択権はご利用者様に委ねる等、日ごろから利用者が希望を表し易い関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様のその日毎の生活ペースを尊重し、どのように過ごすか本人に尋ねできる限り希望に添えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髭や髪の手入れは声掛けや介助を行い、洋服の選択はご自身の選択を優先し整容に努めています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	汁物で使用する野菜を近所の農家へ一緒に買いに行ったり、盛り付け、配膳などその方の力量に合わせやっていたいでいます。個々にあった食事形態で提供し食べることの意欲を維持できるような支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取量や食べ方の変化などを個人記録に残し、健康維持に繋げている。体調や症状の変化に合わせた食事形態で提供するよう工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後歯磨き声掛け、必要に応じて介助を行い口腔内の清潔の保持に努めています。毎月2回歯科往診を受け一人ひとりに合った口腔ケアのアドバイスをいただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の内容を個人記録に記入し、個々の排泄パターンを把握し、間隔が空いている方には声掛けをおこなっています。個々に合わせた介助を職員同士で共有し統一したケアに努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便の有無を職員、看護師と申送りで共有しています。週3日おやつにヨーグルトの提供や体操などを取り入れ出来るだけ便薬を使用せず排便できるように工夫しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の間隔が3日以上開かないよう勧める声掛けを行っています。入浴の希望の有無や時間変更などは臨機応変におこなっています。個々のお好みの湯温で入浴を楽しんでいただけるよう工夫しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一人ひとりの体力や要望に応じて居室にて休息していただいています。散歩やレクリエーションの実施、家事活動の参加を促す事で日中活動的に過ごして頂き夜間は安眠できる環境づくりをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬時、職員2名体制で誤薬防止対策をしています。フロアには処方薬リストを設置しいつでも処方内容を確認できるようにしています。また、一人ひとりのADLに合わせた服薬介助をおこなっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯たたみや食器拭きなどの家事活動に積極的に楽しんで参加されています。日々の散歩や外出行事、室内レクリエーションを通して気分転換して頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩、買い物を目課として行っています。月1回外出行事を企画し普段行かないような所への外出、外食の機会を設けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の際や外出の際に職員が代金を利用者にお渡しし、ご自身で料金を支払っていただくようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご要望のある際は、ご家族に電話をかける支援を行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	週一回、玄関やフロアに季節の花を生けていただいています。廊下には利用者と職員で共同制作した物や利用者が作った千羽鶴を掲示しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアの席を決める際には気のあった利用者が自由に会話を楽しめるような席の配慮をしています。他の利用者の居室で談話されている方や、ソファで寛いでいる方など思い思いに過ごせる環境づくりをしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具やアルバム、テレビなどを置き居心地の良い環境づくりをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者の生活の妨げとならないかを念頭におき環境整備を考えています。タンスなどには入っているものなどを表記する等自立した生活を送れるよう工夫しています。		

2019年度

目標達成計画

事業所名 花物語たかつ新館

作成日： 2020 年 3月 5日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害については施設内研修、消防訓練などを行っている現状ではありますが昨年の10月に浸水被害を受け、水害についての研修や避難訓練を行ない職員が水害についてしっかり理解する必要があると考えます。	職員がいつでも災害が起きた際に落ち着いて対応できるようにする。	定期的な施設内研修を行なう。 消防訓練とは別に水害訓練を行なう。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月